

令和 8 年度伯耆町
一般会計予算提案理由



令和 8 年 第 1 回定例会

本日ここに、令和8年3月定例会を開催し、令和8年度当初予算をはじめとする諸議案についてご審議をお願いするに当たり、私の町政運営に臨む基本的な所信と、重点的に取り組む施策の考え方について、ご説明申し上げます。

本町を取り巻く社会経済環境が大きく変化する中、町政の舵取りにおいて、議会の皆様との十分な議論と合意形成が、これまで以上に重要になっています。町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

町長就任から一年が経過しました。この一年は、施策を拙速に進めるのではなく、まず町民の皆様の声に真摯に耳を傾け、伯耆町の現状と課題を正確に把握することに力を注いだ一年でした。

「まち∞未来ミーティング」及び「まち∞未来カフェ」を計16回開催し、世代や立場の異なる多くの町民の皆様から率直なご意見を伺いました。そこから浮かび上がったのは、単なる要望の羅列ではなく、「この町を何とかしたい」「次の世代に誇れる伯耆町を残したい」という共通の想いでした。

こうした声を踏まえ、私は、人口減少を“避けるべき未来”としてのみ捉えるのではなく、人口減少を前提とした上で、どのように町の質を高め、持続させていくのかという視点が不可欠であると考えに至りました。

すなわち、賢く縮みながらも、町民一人一人の幸福度や地域の活力を高め、なお光を放つ町を目指す。そのためには、将来を見据えた基盤づくりを、今、断行しなければなりません。

伯耆町では、合併以降、人口減少と少子高齢化が一貫して進行しており、高齢化率は令和7年に40.8%に達しました。特に注視すべきは、自然減と社会減が同時進行している点であり、この流れを放置すれば、行政サービスの維持そのものが困難になる恐れがあります。

地区別に見ても、全地区で人口減少が進行し、高齢化率50%を超える集落が全体の4割を超える現状は、集落機能の維持が

“将来の課題”ではなく、“現在進行形の課題”であることを示しています。

ここ数年は僅かに社会増の兆しもありますが、合併以降の全体的な状況を踏まえると、今後10年が、伯耆町の将来を左右する極めて重要な期間であることは明らかです。団塊の世代が後期高齢者となり、地域の担い手構造が大きく変化する中で、今手を打たなければ、取り返しのつかない局面を迎えるという強い危機感を持っています。

令和8年度は、第4次総合計画の初年度であります。単なる計画スタートの年ではなく、町の進む方向を具体的な施策として形にする元年であります。私は、「着眼大局、断行果敢」の姿勢のもと、将来世代に責任を持てる町政運営に全力で臨んでいきます。

私の政治姿勢は、

「人づくりは町づくり、町づくりは未来づくり、未来づくりは教育から。」

この言葉に尽きます。

人口が減少しても、町が衰退するとは限りません。人への投資を怠れば、町は確実に衰えます。

この考えのもと、令和8年度は伯耆町創生の2年目として、次の4つの分野に重点的に投資していきます。

1 安心の町 伯耆町

近年、自然災害は激甚化・頻発化しており、「想定外」という言葉が通用しない時代となっています。本年発生した地震対応を通じ、防災はハード整備だけでなく、日頃の備えと情報共有が何より重要であることを改めて実感しました。

新年度事業として計画している防災のしおり改定や、トイレトレーラー導入は、単なる備品整備ではなく、町民の皆様が「自

分事として備える」ための環境整備です。

また、猛暑対策や子育て支援は、生活の安心感を高めるだけでなく、若い世代が「この町で暮らし続けたい」と思えるかどうかを左右する重要な要素です。

給食費無償化の拡充や、切れ目のない福祉支援体制の構築は、人口減少対策であると同時に、町民の生活の質を底上げする施策です。

2 教育の町 伯耆町

教育は、成果が見えるまでに時間を要する分野ですが、将来への最も確実な投資でもあります。

「伯耆 I 学習」を通じて育まれてきた郷土愛を、単なる「知識」や「感情」にとどめず、行動へとつなげる段階に進めることが、今求められています。

「シビックプライド形成事業」は、子どもたちを町づくりの受け手ではなく、担い手として育てるための取組であり、将来の Uターン・関係人口創出にもつながる重要な施策です。

3 誇りある町 伯耆町

町の誇りは、外から与えられるものではなく、内側から再発見し、磨き上げていくものです。

「伯耆まち☆キラ会議」は、行政主導ではなく、多様な主体が自発的に関わり、町の魅力を価値に変えていくための“共創の場”です。

ふるさと納税、観光、文化芸術、移住定住施策を個別に進めるのではなく、相互に連動させることで、地域内経済の循環と交流人口の拡大を図っていきます。

4 人が輝く町 伯耆町

集落機能の維持への対応は、人口減少が進んでからでは遅く、維持できている今だからこそ、投資する必要があります。

単町補助事業の見直しは、自治会の負担軽減を通じ、地域の自主的な取組を後押しするためのものであり、将来世代への責任ある判断であると考えています。

人口減少は避けられない現実ですが、未来を諦める理由にはなりません。

令和8年度を町づくりの再スタートの年と位置づけ、「地域の本来価値を見立て直し、人と誇りが還る町」の実現に向け、議会の皆様とともに歩んでまいりたいと考えています。

次に、令和8年度当初予算の編成方針と概要について、ご説明申し上げます。

本予算は、「第4次伯耆町総合計画」に掲げる将来像の実現に向け、同計画の基本方針および施策体系に基づき、限られた財源を、真に必要な分野へ重点的に配分することを基本として編成しました。

併せて、国の地域未来戦略や地方財政の動向を的確に捉え、防災・減災、子ども・子育て支援、人口減少対策、地域経済の持続性確保といった、今後の町政運営において先送りできない課題への対応を重視した予算としています。

それでは、令和8年度に講じようとする施策について、第4次伯耆町総合計画に掲げる「まちづくりの基本方針」

1. 住みよさを感じるまち
2. 地域産業を育むまち
3. 健やかで心豊かな人を育むまち
4. 健康で安心して暮らせるまち
5. 住民とともに創る持続可能なまち

の5つの柱に沿って、重点施策を中心に主な事業の概要を申し上げます。

1. 住みよさを感じるまち

「災害に強いまちづくり」「持続可能なインフラ整備」「デジタルを活かした情報発信」を重点施策とします。

近年、自然災害は激甚化・頻発化しており、防災・減災対策の強化と地域防災力の向上は喫緊の課題であります。

住民への防災情報を確実に伝達するため、老朽化した防災行政無線の更新に向けた設計を行い、併せて集落放送導入の可能性について検討します。

また、ドクターヘリの中継地でもある「ささふく水辺公園」について、公園内道路の舗装とトイレの増設を行います。増設するトイレは移動式トイレトレーラーとし、平時は公園利用者の利便性向上に、災害時には避難所等で活用できるよう整備します。

さらに、西部消防局と連携し整備を進めている耐震性貯水槽については、藍野に1か所新設するとともに、水量不足が見込まれる2か所の設計を行います。加えて、避難訓練の充実や住宅耐震化への支援拡充など、地域全体の防災力向上に取り組みます。

次に、上下水道や道路、公共交通などの生活基盤は、住みよさを支える根幹であります。これらについて、長寿命化による機能維持と、改良による利便性・安全性の向上を図ります。

上下水道は、必要な施設改良を進めながら、安定的な管理運営と経営健全化に取り組みます。道路については、道路改良7路線、舗装修繕2路線を実施し、安全で快適な交通網の整備を進めます。

また、行政情報や防災情報を迅速かつ、分かりやすく提供できる体制を構築します。公式LINEの導入により、スマートフォンから手軽に情報取得やサービス利用が可能となる環境を整備します。

併せて公式ホームページを全面的にリニューアルし、LINEとの連携も検討しながら、情報発信力と住民サービスの向上を図ります。

2. 地域産業を育むまち

「新たな価値を生む産業支援」「持続可能な農業の推進」「デジタルで発信する観光振興」を重点施策とします。

地域経済の自立と稼ぐ力の強化に向け、本町の基幹産業である農業をはじめ、地域産業の持続可能性向上に取り組みます。

地域活性化企業人の受入れにより、ふるさと納税の強化・拡大と、返礼品の掘り起こしを進め、財源確保と地域産業の活性化を両立させます。

また、地域力共創「伯耆まち☆キラ会議」を継続開催し、多分野の連携により地域資源の魅力向上を図ります。写真美術館周辺では、町有地と大山の景観を活かしたフラワーロード整備を進めており、秋の蕎麦の花、来春の菜の花の開花に向け準備を進め、観光拠点としての魅力向上に取り組みます。

次に、担い手不足や高齢化、資材価格高騰などの課題に対応するため、機械導入支援やスマート農業の推進、共済助成、優良雌牛導入、草地改良などを実施します。

新たに農作業時の熱中症予防として、冷却作業服の購入支援を行うほか、ラジコン草刈り機の追加配備により作業負担の軽減を図ります。景観作物の栽培支援も継続し、農業と観光の相乗効果を高めてまいります。

また、企画課内に新設する「地域未来戦略室」に、地域おこし協力隊員を配置し、SNS等を活用した戦略的な情報発信を行います。ホームページの刷新と合わせ、集客・滞在促進・消費拡大につながる観光施策を推進します。

3. 健やかで心豊かな人を育むまち

「地域への愛着心の醸成」「つながる学び」「結婚・子育て世代への総合的支援」を重点施策とします。

「伯耆I学習」を柱としたふるさとキャリア教育を充実させ、地域と連携した学びを通じて郷土への誇りと愛着を育みます。

子ども達がまちづくりの担い手として主体的に関わる取組を支援するため、「シビックプライド形成事業補助金」を創設します。

保育所から中学校までの一貫教育を推進し、確かな学力と社会性の育成を図ります。タブレット端末の更新や学校照明のLED化、不登校傾向の生徒への校内サポート教室設置など、教育環境の充実に取り組みます。

子育て支援では、こども家庭センターを設置し、妊産婦から子どもまで、切れ目ない相談支援体制を整備します。放課後児童クラブは外部委託を予定し、安全で質の高い運営を目指します。さらに小学校給食の無償化に加え、中学校についても町独自で無償化し、子育て世帯の経済的負担軽減を図ります。

4. 健康で安心して暮らせるまち

「健康寿命の延伸」「安心できる相談体制の充実」を重点施策とします。

健康づくりでは、オンラインによる認知症スクリーニング検査を導入し、早期発見・早期対応につなげます。若年世代については、プレコンセプションケアに関する検査、及び中学生への指導を実施し、健康意識の向上を図ります。また、緑内障検診の新設により、目の疾病についても早期発見・早期治療に繋げ、若年期から高齢期まで切れ目のない健康づくりを推進します。

相談体制では、高齢者や障がい者の増加に伴い、多様化・複雑化する課題に対応するため、地域包括ケアシステムの深化と在宅生活・就労支援の強化を図ります。認知症相談については随時対応へと改め、認知症サポート医と連携し、早期介入による不安の軽減と生活の安定を図ります。

5. 住民とともに創る持続可能なまち

「移住・定住の推進」「地域コミュニティ意識の醸成」を重点施策とします。

人口減少対策として、「地域未来戦略室」に、移住コーディネーターを配置するなど体制を強化します。空き家バンク設立に向けた準備を進めるほか、溝口地域での住宅整備について、PFI事業導入可能性の調査検討を行います。

また、住民主体のまちづくりを推進するため、「まち∞未来ミーティング」などの対話の場を継続して設け、情報共有と協働を図ります。

町単独補助事業の補助率引き上げにより、地域活動や生活基盤整備への支援を強化し、各集落で将来を考えるきっかけづくりになることを期待し、地域の持続力向上につなげてまいります。

以上、各基本方針の重点施策を中心に、主な事業について説明しましたが、まちづくりを進める上では、持続可能で健全な財政運営が不可欠であります。

最後に、令和8年度予算の概要について申し上げます。

一般会計の歳入歳出予算額は87億600万円で、前年度比5億9,600万円、率にして7.35%の増となりました。主な要因は、防災・減災対策や公共施設の計画的改修など将来負担の抑制につながる先行投資、子ども・子育て支援や教育施策の充実など人口減少対策の推進、さらには社会保障関係経費の増加や物価高騰への対応によるものです。これらはいずれも将来の財政負担の増大を防ぐために、現段階で不可欠な経費であると判断しています。

一方で、将来世代に過度な負担を残さないよう、既存事業の見直しと優先順位付けを徹底し、持続可能な財政運営との両立を図っています。財源面では、町税の増収を見込むほか、本町財源の柱である普通交付税についても、当初予算ベースでの増

額を見込みました。町債は交付税措置のある有利な地方債を活用し、ふるさと納税の取組強化による歳入確保にも努めています。

なお、それでもなお不足する財源については基金を活用しつつ、地方債残高は減少を見込んでおり、財政健全化指標においても問題のない水準を維持しています。

新年度予算は、これまでの健全な財政運営を堅持しながら、第4次総合計画のもと、住みよい伯耆町のさらなる質的向上を目指すものです。防災・減災、子ども・子育て支援、人口減少対策、地域経済の持続性確保などの重要課題に対し、将来を見据えて必要な施策を着実に推進するための予算として編成いたしました。

以上、令和8年度伯耆町一般会計予算の概要について、ご説明申し上げます。

議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。